

鳥羽城は九鬼嘉隆によって築造されたことはよく知られていますが、その後目まぐるしく城主は替わり、最後に鳥羽藩を治めたのは稲垣氏で、享保10（1725）年から幕末までの8代、約140年の長きにわたりました。常安寺の境内奥には、九鬼氏の廟所（墓所）の隣に稲垣家の廟所があり、市の指定文化財になっています。



稲垣長茂(1539～1612年)。戦国時代の武将。江戸時代前期の大名。上野国伊勢崎藩初代藩主。



肖像画が展示された特別展「戦国ふぁっしょん」ポスター(徳川美術館図録より)

徳川美術館に  
出展された  
優品です！

稲垣長茂像

孫のかたから鳥羽市に多くの歴史資料が寄贈されました。その中の一つに「稲垣長茂像」があります。これは、稲垣家が鳥羽藩に移る前の上野伊勢崎藩主であったところの当主、稲垣長茂（ながしげ）の肖像画です。長茂（1539～1612年）は、戦国時代に活躍した武将で、数々の戦功を立て徳川家康の直属の家臣になり、

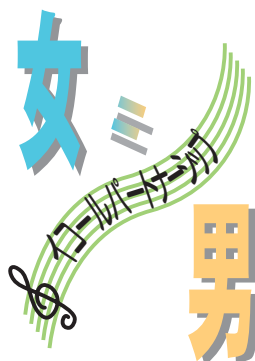
後に大名にまで伸び上がった人物です。この像は長茂の晩年の姿が描かれています。慶長17（1612）年ごろに作成されたものと考えられており、17世紀初頭にさかのぼる武家の肖像画として、貴重な資料といえます。この資料は、昨年の10月10日～11月15日まで徳川美術館で開催された「戦国ふぁっしょん」という特別展で、学校の教科書などでよく紹介される織田信長や明智光秀の肖像画などと並んで展示されました。それは、この肖像画がそれほど重要な資料であるということを意味しています。まだ、文化財の指定はされていませんが、将来的には修理をした上で、広くみなさんに見ていただけるようにしたいと思っています。

鳥羽のお宝  
再発見!



vol.19

教育委員会生涯学習課  
☎1268



以前、庁内で研修会を実施した際、講師の先生が「社会の中で、男女共同参画を進めていく重要ポイントは、それぞれの部署が共に手を取り合い、どれだけ深く『よこぐし』を入れていけるかということにありませぬ。個々のつながりが最も大切です。」と聞きました。

ここである『よこぐし』を入れるとは、男女共同参画の意思を基にし、違う部署が互いに連携を取りながら、施策を推進していくということではないでしょうか。その『よこぐし』を入れることにより、それぞれの分野で男女共同参画のエキスがより浸透されることが期待できます。しかし実際のところ、それを組織内で行うためには、相互間で高い意識を持ち

よこぐし

vol.100

市民課人権・生活係

☎1126

